

○予稿原稿

設立当初、光で骨を切る事を目的に、骨の吸光度計測による骨切断に優位性がある波長選定から研究を行い、骨に高い吸収があり、且つ、筋肉組織への吸収が低い波長を選定し、骨を切断する臨床研究を行い、機器開発を行ったことで、光学系並びに電気回路の設計技術蓄積が出来た。



【骨切術の既存医療機器】

【課題と研究開発実績】

そこで、医師より非侵襲で生体を計測するニーズを頂き、近赤外光を用いて抹消血流を非接触非侵襲で可視化及び計測する機器を開発後、医療機器として上市し、拡販展開を行い、顧客ニーズに適応していく中で、生体内の血流変化を S/N が高く捉える技術を構築する事が出来た。

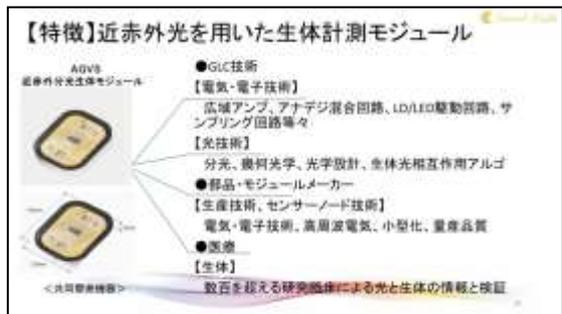


【ジーニアルビューア】

【高 S/N 血流計測技術と開発機器】

生体内の血流変化を非侵襲で S/N が高く捉える技術を製品化する上で、課題となったのが小型化であった。

その課題を解決していく上で生産技術力のある部品メーカーとの連携を行い、色々な機器とシーンで活用できる近赤外分光生体計測デバイスを開発し、主要市場へシェアがある企業との連携を開始している。



【生体計測デバイスの連携開発】

【生体計測デバイスの臨床結果】